

令和5年度

劇場・音楽堂等活性化・ネットワーク強化事業

(地域の中核劇場・音楽堂等活性化)

成果報告書

団 体 名	公益財団法人キラリ財団	
施 設 名	富士見市民文化会館キラリふじみ	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	21,438	(千円)
	公 演 事 業	16,254 (千円)
	人 材 養 成 事 業	0 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	5,184 (千円)

1. 事業概要

(1) 令和5年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	キラリふじみ・ダンスカフェ スペシャルコラボレーション『幻想曲Ⅱ』	2/11(日)・12(振)	コンセプト・ディレクション／白神ももこ、舞台美術／濱崎賢二、照明／中山奈美、舞台監督／原口佳子ほか、出演／西井夕紀子、あだち麗三郎、大黒さやか、大倉摩矢子ほか	目標値	380
		マルチホール		実績値	275
2	キラリ☆かげき団 第17回公演『歌と物語の劇場』	1/13(土)・14(日)	構成・作曲・音楽監督／萩京子、演出・構成台本・歌唱指導／梅村博美、振付／白神ももこ、朗読指導／新井純 出演／キラリ☆かげき団	目標値	600
		マルチホール		実績値	349
3	伊藤キム 新作ソロ公演『ダミーズ』	9/30(土)	振付・演出・出演／伊藤キム	目標値	210
		マルチホール		実績値	74
4	劇団こふく劇場『ロマンス』	12/9(土)・10(日)	作・演出／永山智行、出演／かみもと千春、濱沙果宏、有村香澄、池田孝彰、大西玲子(青☆組)	目標値	480
		マルチホール		実績値	170
5	オペラシアターこんにゃく座『さよなら、ドン・キホーテ!』	10/21(土)	台本・演出／鄭義信、作曲／萩京子、出演／沖まどか、飯野薫、佐藤敏之、北野雄一郎、岡原真弓、大石哲史、富山直人、壹岐隆邦、ピアノ／大坪夕美	目標値	420
		メインホール		実績値	324
6	青年団プロデュース公演『馬留徳三郎の一日』	11/11(土)・12(日)	作／高山さなえ、演出／平田オリザ、出演／田村勝彦(文学座)、羽場睦子(フリー)、猪股俊明(フリー)、山村崇子、永井秀樹、能島瑞穂、海津 忠、串尾一輝	目標値	480
		マルチホール		実績値	227
7	ハーツ・ウィンズコンサート2024	3/24(日)	音楽監督・指揮／大澤健一、演奏／ハーツウィンズ、公募による一般参加者	目標値	420
		メインホール		実績値	352
8	キラリふじみ ニューイヤークンサート2024	1/28(日)	企画／西巻正史、ヴァイオリン／小川恭子、大塚百合菜、ヴィオラ／田原綾子、チェロ／笹沼 樹、ピアノ／兼重稔宏、實川風	目標値	400
		メインホール		実績値	214
9	二兎社『パートタイマー・秋子』	2/25(日)	作・演出／永井愛、出演／沢口靖子、生瀬勝久、亀田佳明、土井ケイト、吉田ウーロン太、関谷美香子、稲村梓、小川ゲンほか	目標値	450
		メインホール		実績値	732
10	キラリふじみ狂言公演 万作の会	1/31(水)	出演／万作の会	目標値	600
		メインホール		実績値	498
11	橋爪功の朗読	1/18(木)	演出・出演／橋爪功、照明／西本彩、音響／穴沢淳、衣装／カナイヒロミ	目標値	470
		メインホール		実績値	189
12	キラリ☆風流寄席	6/24(土)	出演／春風亭昇々、昔昔亭A太郎、養老瀧之丞、桂しゅう治	目標値	220
		マルチホール		実績値	170

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和5年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	サーカス・バザール	7/8(土)・9(日)	出演／ふくろこうじ、森田智博、田中健太、油布直輝、長すみ絵、吉川健斗、Honoka、鳥居大幹ほか	目標値	4,000
		全館		実績値	2,920
2	ふじみ大地の収穫祭	11/23(木・祝)	ふじみ大地の収穫祭実行委員会ほか	目標値	3,000
		マルチホールほか		実績値	2,851
3	キラリふじみ・ダンスカフェ&ダンスの時間	4/22(土) 9/2(土) 10/14(土) 12/23(土) 3/30(土) ほか	出演／ひとごと。、雫境(DAKEI)、asamicro、伊藤千枝子、中ムラサトコ、関かおり PUNCTUMUN	目標値	20×5回 +20×5回=200
		アトリエほか		実績値	182
4	(中止)			目標値	70名×3回=210名
				実績値	
5	こどもステーション plus	4/22(土) 5/21(日) 6/18(日) 7/15(土) 9/2(土) 10/21(土) 11/11(土) 12/24(日) 1/27(土) 2/24(土) 3/31(日)	進行／白神ももこ(キラリふじみ芸術監督)有吉直人、岩澤哲野(libido:)、大道朋奈、永咲桃子、仁科幸(モモンガ・コンプレックス)	目標値	25×11回=275
		マルチホールほか		実績値	170
6	夏休みワークショップ・アソート きになる劇場、はじめの一步	7/24(月) 25(火) 28(金) 29(土) 30(日)	岡原真弓、沖まどか(オペラシアターこんにゃく座)、服部真理子(ピアノ)、林家はな平(落語家)、なかむらくるみ(ダンスアーティスト)、永山智行(劇作家・演出家)	目標値	20×4回=80
		マルチホール		実績値	64
7	小中学校へのアウトリーチ・ワークショップ	11/27(月) 12/4(月) 12/5(火) 12/12(火) 12/11(月) 1/17(水) 1/19(金)	音楽／笹沼樹(チェロ)、兼重稔宏(ピアノ)、能楽／喜多流能楽師、狂言／万作の会の狂言師	目標値	述べ12校45クラス×35=1,575
		市内小中学校		実績値	632

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>ミッション（社会的役割等）・ビジョンや地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>富士見市文化芸術振興条例（平成24年6月制定）の前文では、文化芸術活動を市民生活に根付かせる活動に当館の文化事業を挙げ、令和6年3月に策定された第2次富士見市文化芸術振興基本計画（令和6年度～13年度）では、第1次の計画に続いて「キラリ☆ふじみからの創造と発信」や「キラリ☆ふじみの施設の充実」等が施策の柱とされるように、当館は市の文化芸術振興の中心的な施設として位置付けられている。そうした位置づけ等に基づいた当館のミッション、「心のゆとりや生きる活力に満ちた豊かな市民生活」の実現にむけて計画し、白神ももこ芸術監督と幅広いジャンルの連携アーティストを中心に展開する公演12事業、普及啓発6事業を予定どおりに実施することができた。</p> <p>首都圏の30km圏内という立地や、農業を生業にこの地に根をおろし先祖代々暮らしている住民から、2000年代に転居をしてきた若い世代の住民に至るまで、様々なバックグラウンドやライフスタイルを持つ市民が暮らす、富士見市の地域性に基づいて組み立てた計18事業を、「①鑑賞」「②体験・交流」「③育成」「④支援」の4つの事業運営方針に基づいて展開することで、「開かれた場」、「出会いや交流の場」、「人材を育む場」の、当館のミッション実現にむけた3つの場づくりの実践に取り組んだ。</p> <p>代表例として、白神ももこ芸術監督による作品として創作上演した『幻想曲Ⅱ』では、令和元年度の初演当時の創作をブラッシュアップさせ、音楽家、舞踊家等の多様なジャンルのアーティストや幅広い世代の市民の参加者により、劇場での体験を通じた新しい出会いや交流、異なる価値観や視点を共有できる場や機会の提供を一層促進させた。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p>当館が地域の中核劇場として、当該評価軸のような意義を果たすために展開している文化芸術活動には、市民とアーティストによる活動を軸に、これに市内外の各種団体との連携や協働を加え持続的に行っている活動があり、以下は本年度の活動の具体例である。</p> <p><主に文化的意義、社会的意義を持つ活動の例></p> <ul style="list-style-type: none">◆コンサート本番への来場にはハードルが高い未就学児童を同伴する親子の観客や、市内の障がい者福祉施設の入所者を無料招待する「ニューイヤーコンサート」の関連企画「公開リハーサル」は今回で8回目を数える。◆青少年と劇場との出会いの場づくり促進させる活動として、おやこ劇場と協働し、「サーカス・バザール」でのワークショップ「大きなガラスに絵を描こう!!」の運営や、おやこ劇場例会公演（本年度は、オペラシアターこんにゃく座『さよなら、ドン・キホーテ!』）の共同開催を毎年継続している。 <p><主に文化的意義、経済的意義を持つ活動の例></p> <ul style="list-style-type: none">◆市民の主体的な活動である「第17回キラリ☆かげき団公演」では、出演する市民の団員自らの手でチケットを販売し観客を満員とする、市民と劇場の関係を活性化させる存在として大きな意義を果たしている。◆市内の農業者や商業者と、「食と文化＝まちづくり」のコンセプトを共有して事業を協働している「ふじみ大地の収穫祭」は今回で6回目となり、毎年11月23日に「1123 いい富士見（ふじみ）の日」として富士見市商工会が主催する「ふじみマーケット」、隣接する大型商業施設「ららぽーと富士見」と商工会が共催する「賑わいづくりイベント」の3つのイベントと一体的に開催することで、地域資源を活かした文化振興とマーケットの活性化等の好循環を生み出している。

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

<公演事業>

●白神芸術監督による2作品の創作・上演を通じて、新規の観客及び事業への参加者の充実・発展を図るための目標を定め、これにむけて取り組んだ。

『幻想曲Ⅱ』

①本作初演等の繋がりで見学した新規鑑賞者 目標:100名→実績:164名(達成率164%)

②白神芸術監督進行の他ジャンルのプログラム等からの市民参加者 目標:10名→実績:16名(達成率160%)

③近隣の手話サークル等の当館との連携する団体の鑑賞 目標:3団体→実績:団体での鑑賞はなし

キラリ☆かげき団第17回公演『歌と物語の劇場』

①かげき団が自ら宣伝、動員する 目標:320名→実績:265名(達成率83%)

②かげき団の活性化にむけた新規メンバー獲得 目標:10名→実績:2名(達成率20%)

●白神芸術監督が推薦する連携アーティストの公演の有料観客数並びに、公演に関連して行う体験・交流プログラムへの参加者数の目標を定め、これにむけて取り組んだ。

公演有料観客数 目標:1,910名→実績:1,021名(達成率53%)

体験・交流プログラム参加者数 目標:810名→実績:519名(達成率64%)

●幅広い世代の市民のニーズに応える連携アーティストの公演の有料観客数並びに、公演に関連して行う体験・交流プログラムへの参加者数の目標を定め、これにむけて取り組んだ。

公演有料観客数 目標:2,050名→実績:1,598名(達成率78%)

体験・交流プログラム参加者数 目標:880名→実績:1,817名(達成率206%)

<普及啓発事業>

●多様な市民が参加できる、普及型の大型イベントへの来場・参加者数の拡大

「サーカス・バザール」来場・参加者数 目標:4,000人→実績:2,920人(達成率73%)

「ふじみ大地の収穫祭」来場・参加者数 目標:3,000人→実績:2,851人(達成率95%)

●子どもや若い世代の参加促進にむけた、参加者数の拡大

「キラリふじみ・ダンスカフェ and ダンスの時間」

回数 目標:10回→実績:10回(達成率100%) / 参加者数 目標:200人→実績:172人(達成率86%)

「こどもステーションplus」

回数 目標:11回→実績:11回(達成率100%) / 参加者数 目標:275人→実績:173人(達成率63%)

「夏休みワークショップアソート」

回数 目標:7回→実績:5回(達成率71%) / 参加者数 目標:20人→実績:64人(達成率320%)

●「小中学校へのアウトリーチ・ワークショップ」の充実化

実施校数 目標:12校→実績:7校(達成率58%)

実施クラス 目標:45クラス→実績:21クラス(達成率47%)

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

<事業期間について>

公演事業では、6月の「キラリ☆風流寄席」をはじめとする全12公演、普及啓発事業では、4月開始の通年事業「こどもステーションplus」をはじめとする全6事業を、概ね当初の計画通りに実施することができた。

公演事業である「橋爪功の朗読」について、実演者側とのスケジュール調整に思いのほか時間を要したことで、開催日の確定からの告知・宣伝期間が十分でなく観客動員に影響したことは次回開催にむけての改善点である。

普及啓発事業については、夏季の「サーカス・バザール」、秋季の「ふじみ大地の収穫祭」の2つの大型普及事業を軸に、通年で行う「こどもステーションplus」、「ダンスカフェ&ダンスの時間」等の企画をバランス良く配置し、一年を通じて子どもや若い世代が参加できる事業を計画・実施した。

以下の事業は、助成要望時の開催月から変更して行った主な事業である。

●キラリふじみ狂言公演「万作の会」*実演者側とのスケジュールの最終調整により変更

申請時：令和5年12月[1回]（予定）→実施日：令和6年1月31日（水）

●「橋爪功の朗読」*実演者側とのスケジュールの最終調整により変更

申請時：令和6年3月[1回]（予定）→実施日：令和6年1月18日（木）

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

<事業費について>

収支に関して以下のとおりであった。*支出は助成対象経費

◇公演事業 収入 [計画]13,850,000円→[実績]8,703,150円（収入率63%）

支出 [計画]39,152,000円→[実績]33,468,232円（執行率85%）

◇普及啓発事業 収入 [計画]1,115,000円→[実績]1,009,800円（収入率91%）

支出 [計画]12,665,000円→[実績]12,979,625円（執行率102%）

公演事業の収入率（63%）について、ホール別の入場料収入及び収入率でみると、

メインホール：[計画]8,245,000円→[実績]6,619,750円（収入率80%）

マルチホール：[計画]5,605,000円→[実績]2,083,400円（収入率37%）

と開きがある。有料動員数の強化という公演事業全体の課題と合わせて、マルチホールを中心に展開している、芸術監督をはじめ、多様なジャンルのアーティストによる創作・上演による、観客層の獲得に今後さらに力を入れて取り組む必要がある。

支出の執行率（公演=85%、普及=102%）に関しては、本助成の内定額と自主事業費の主たる財源である当館の施設利用料の収入状況を見ながら本助成金の有効活用に最大限努めた結果である。

普及啓発事業の収入率（91%）は、「サーカス・バザール」において、メインホールを会場に行ったサーカスショーのチケット収入で、開催当日でも気軽に立ち寄って鑑賞できる開催形態が好評で高い収入率となった。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

◆地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮するための資源を最大限に活かした事業展開

芸術面における中心的存在となるのは白神ももこ芸術監督で、当館のビジョンであり、芸術監督の芸術方針にも重なる「ジャンルや垣根を越えてひとが繋がる開かれた場所づくり」に自らが率先してリーダーシップをとり、これを体現している。

また、白神芸術監督は、当市の文化芸術の担当課が行う、若い世代むけのワークショップの進行役を意欲的に引き受けるなど、幅広く取り組むことで、劇場の参加者や行政方面なども含め広範囲にわたり、当館のビジョンやそれに基づく活動に対する認知や理解が得られるようにつとめている。

今年度、創造性の視点に沿った特徴的な事業として、白神芸術監督の就任初年度に創作上演したダンス作品『幻想曲』（2020年1月）をブラッシュアップし、本年2月に再演した白神芸術監督による『幻想曲Ⅱ』を挙げる。

本作は、当館開館当初に白神ももこが創作した「劇場ツアー型パフォーマンス公演」を皮切りに、現在の芸術監督期までの約20年間、近年では、市民の観客から“モガ”の愛称で親しまれるような、「モガ溪谷」や「モガ惑星」等の代表作を生み出すなど、劇場の既存の枠組みを取り払うようなボーダレスな作品創造を展開してきた当館の創造活動を象徴する作品として、市内外からの幅広いアーティストや市民による創作上演で好評を博した。

この創作で大きな収穫となったのは、当館主催の市民オペラ合唱団「キラリ☆かげき団」のメンバーや、当館のこれまでの創作やワークショップ等を通じて関わり合った市民等で構成した「何かをつくりたい人たち。」の参加により、当館の創造活動の根底にある、市民とアーティスト、市民同士の共同作業を通じて、常に進化していく創作の醍醐味を分かち合うことができた点である。

また、連携アーティストによる舞台作品（オペラシアターこんにゃく座『さよなら、ドン・キホーテ！』、永山智行氏主宰の、劇団こふく劇場『ロマンス』等）の上演で鑑賞機会を一層充実させることに加え、こんにゃく座員や永山氏によるワークショップ（『きになる劇場、はじめの一步』）で、創り手の視点や手法を交え、創作の豊かさや楽しさを多くの参加者が体験することができた。

さらに、本年度は音楽分野の充実にも一層の力を注ぎ、トッパンホールのプロデューサーの西巻正史氏と連携して開催している「ニューイヤーコンサート」に出演する演奏家が、市内の小・中学校で行うアウトリーチプログラム（本年度は笹沼樹氏：チェロ、兼重稔宏氏：ピアノ）を新たに加え、子どもたちが本物の演奏を体験することに加え、演奏家の人柄にも触れられる貴重な体験となった。

また、市内在住の音楽家である大澤健一氏が主宰する吹奏楽団「ハーツウインズ」と連携し、本年度（3月）に初開催した『ハーツ・ウインズコンサート2024』では、コンサート本番に合わせて、楽団メンバーが指導する、吹奏楽クリニックを開催した。近隣の中学校吹奏楽部の生徒や一般の参加者の55名がプロの演奏家による指導を受け、コンサート本番では2曲の合同演奏でハーツウインズメンバーと共演した。

最後に、こうした当館の持続的な創造活動において、館の舞台技術面を一手に引き受ける「有限会社創光房（代表：篠木一吉氏）」らの、安全面への万全の配慮と館の機能性を存分に発揮する確かな技術面のサポートは不可欠で、当館の強みと言える。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

◆当館ならではのスタイルをもった市民協働・参加型事業による地域振興

<サーカス・バザール>

平成 24 年に開始し毎年 7 月に実施しているこの企画は、サーカスのパフォーマンスと市内の農業・商工業者等の市民が出店するマーケットが全館を会場に繰り広げられ、市内外から多数の来場者が訪れる幅広い層の市民に親しまれている事業である。また、本事業は幼少期や青少年期にむけた当館との出会いの機会となる入口事業として位置付けており、市内近隣の幼稚園 16 施設に約 2,700 名、市内 18 校の小・中・特別支援学校に約 9,000 名にチラシが手渡すようにしている。開催を重ねるごとに家族連れや若い世代の来場が多くなり、早い時期から鑑賞や参加することの楽しさや市内の食や産業に関心や理解を深める貴重な契機となっており、地域振興に欠かせない事業として全市的に認知されている。

さらに本事業を通じて、商業や農業等の生業の違いや、居住地域の垣根を越えて、市民の間に新しい交流や連携関係が生まれている。さらにそうした市民は当館のサポーターとなって、様々な事業に対して協力や支援に尽力いただいている。

<ふじみ大地の収穫祭>

上記の「サーカス・バザール」での市民との協働の経験を活かし、地域の祭りの再生と活性化を通じてまちづくりを目指すイベント「ふじみ大地の収穫祭」を平成 29 年度に開始し、毎年 11 月に行っている。

本年度で 6 回目となるが、開催当初から商業や農業やまちづくりの分野で活動する市民が組織する実行委員会を中心となり、当館のホール内やロビー空間などに、郷土芸能が演じられる舞台や農家がつくる料理が並ぶ出店コーナーなどを設けて、賑わいを創出している。地元で収穫された“お米”を食のメインテーマに、炊き立てご飯をお客様に振舞い、お米の生産者による「お米作りの秘訣・魅力」のレクチャー、さらに芸能では、お囃子の上演に、本年度の開催では、「お囃子体験ワークショップ」のプログラムを新たに加えて、劇場機能を活かしながら、地域の魅力を再発見する機会を創出している。

◆学校教育機関との連携による地域の文化芸術の発展

当館からほど近い私立高校と連携関係にあり、当館の主催公演や関連ワークショップの機会が、芸術体験学習といった学校教育プログラムの一つとして活用されている。具体的には当館の事業運営サポート委員会の市民のメンバーが企画する『キラリ☆風流寄席』や、万作の会による「狂言公演」が毎年このプログラムに採用されている。近年ではこれに加え、令和 4 年度の劇団銅鑼による演劇公演『いのちの花』関連ワークショップに参加した学生 2 名が、本番のラストシーンに出演した例や、本年度においては、若手の落語家を主体に番組構成した『キラリ☆風流寄席』で、終演後に学生と落語家による交流の場を設け、そこで若い世代同士が出会い様々なものを交換する等の様々な機会によりその連携が深まっている。

こうした公立文化施設と学校教育機関の連携による地域の文化芸術の発展を今後も継続し、着実に発展させていく。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

◆人材配置と育成

当館は、マネージャー、芸術監督、館長そして舞台技術者に豊富な経験や実績を有する専門的人材を配置し、館の貸館業務全般を担う「管理担当」、主催事業の企画・運営を担う「事業担当」の2担当制で業務を行う。

職員の年代構成について、正規職員の半数以上が40代となり、うち職員の複数がこの数年で定年退職という過渡期にある。令和2年に入職した3名の若手職員のうち2名が正規職員に昇格し、令和6年1月採用の職員1名も正規職員昇格の計画を立てる等、若手主体の館運営にむけて循環を図っている。

◆財源の安定化

館の人件費を含む維持管理費として、市からは指定管理料（毎年約1億9千万円）が支出されている。事業の財源は、自主事業への充当が認められている施設利用料と公演チケット収入増にむけた取り組みと並行して、一層充実した自主事業展開のための補助金、助成金等の外部資金の獲得に努めている。

* 令和5年度 文化庁 21,438,000円 (一財)地域創造 1,700,000円

◆ネットワークの構築（劇場・音楽堂等、高等教育機関とのネットワークの具体例）

例1) 令和5年度対象事業として、伊藤キムソロダンス『ダミーズ』を、「愛知県知立市文化会館」「岩手県宮古市民文化会館」「高知県高知市文化プラザかるぽーと」と連携してツアー上演を行った。各地との連携は、この十年来、演劇の共同制作（知立）や当館制作作品のツアー上演（高知）等の連携を築いている。

例2) 同じく令和5年度対象事業として、長年連携関係にあり、宮崎県三股町を拠点に活動する永山智行氏主宰の劇団「こふく劇場」による演劇公演『ロマンス』を当館で初上演した。当館で令和5年7月に実施した永山氏による戯曲ワークショップで生まれた参加者の作品が、永山氏がディレクターをつとめる演劇フェスティバル（三股町で毎年開催）で上演作品に採用され、地域間の連携へと発展を遂げている。

例3) 当館からほど近い、私立高校の芸術体験学習のプログラムに当館主催公演を継続的に活用。（「キラリ☆風流寄席」、「万作の会狂言公演」等のプログラム）

例4) 令和6年7月に、小さな子どもたちのための新しい舞台作品を創作する、デンマークの劇団「シアター・ブリック」の作品を招聘元である座・高円寺と連携を図り取り組んでいる。（計画している当該事業は、助成申請期間内に実施の決定に至らなかったため令和7年度助成対象事業ではない）

◆PDCA サイクルに市民のニーズを組み込んだ事業計画と事業運営

当館では、助成の趣旨とそれを活用する当館の意義を深く認識したうえで事業を計画し（P）、これに基づいて、当館のアーティストが主導するプログラムを実施する（D）。そして、市民と直接触れあえる事業の現場や(2)の妥当性の欄で延べた、市内外の各種団体との協働やヒアリングを通じて、市民が日ごろ自らの生活や仕事、また地域の現状等について抱いている意見や問題意識を把握し（C）、そうした諸課題に文化芸術を通じて向き合うための運営手法の見直しを図る（A）。このような手法を通じて、助成を最大限に活用し、かつ市民ニーズに沿った事業展開に努めている。